

日本経済と 金融の将来像

11/23 2019 土
13:00~17:00

場所 駒澤大学記念講堂 司会 代田 純(駒澤大学)

報告
01

日本経済と金融における人工知能(AI)の活用

井上 智洋(駒澤大学)

略歴 早稲田大学助教を経て、駒澤大学経済学部准教授。専門はマクロ経済学。特に人工知能(AI)の進化が雇用に与える影響を研究している。『人工知能と経済の未来 2030年雇用大崩壊』(文春新書、2016年)が注目される。近著は、『AI時代の新・ベーシックインカム論』(光文社新書、2018年)。

報告
02

フィンテックの現状と将来

岩下 直行(京都大学)

略歴 1984年に日本銀行入行。1994年から日本銀行金融研究所で、金融分野における情報セキュリティ技術の研究に従事する。2016年に新設された、日本銀行フィンテックセンター・初代センター長を経て、2017年より京都大学公共政策大学院教授。同年より金融庁参与も兼務している。2018年3月に、第14回情報セキュリティ文化賞を受賞した。

報告
03

楽天の考えるキャッシュレスのカタチ

中村 晃一(楽天ペイメント社長)

略歴 三井住友銀行ネットビジネス企画部から、2001年当時社員数200名の楽天にジョイン。楽天市場、楽天トラベル、社長室等を経て、現在、楽天ペイメント(株)代表取締役社長、楽天(株)常務執行役員、楽天カード(株)取締役。日本企業として、電子商取引の分野でリーダー的存在である楽天グループ。楽天グループのキャッシュレス戦略について語る。

報告
04

ビットコイン・バブルの崩壊とデジタル通貨の可能性

中島 真志(麗澤大学)

略歴 1981年に日本銀行入行。調査統計局、金融研究所、国際局、金融機構局、国際決済銀行(BIS)などを経て麗澤大学経済学部教授。博士(経済学)。著書は多数あるが、最新刊の『アフター・ビットコイン』(新潮社)は、ビットコインとブロックチェーンを扱った1冊として注目され、約5万部のベストセラーとなっている。「仮想通貨交換業に関する研究会」(金融庁)の委員も務めた。

質問

コメンテーター 深見 泰孝(駒澤大学)

参加
無料

スマートフォンで事前登録によりどなたでも参加いただけます。

■スマートフォンでの事前登録は、10月から駒澤大学経済学部ホームページ
(<https://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/keizai/>)、または
駒澤大学ホームページ→「学部・大学院」→「学部・学科作成のページ」→「経済学部」で
「経済学部70周年記念事業」のバナーをタップ。

